

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

輯 編 局 報 情 號 六 四 三 第 · 日 八 月 一 十

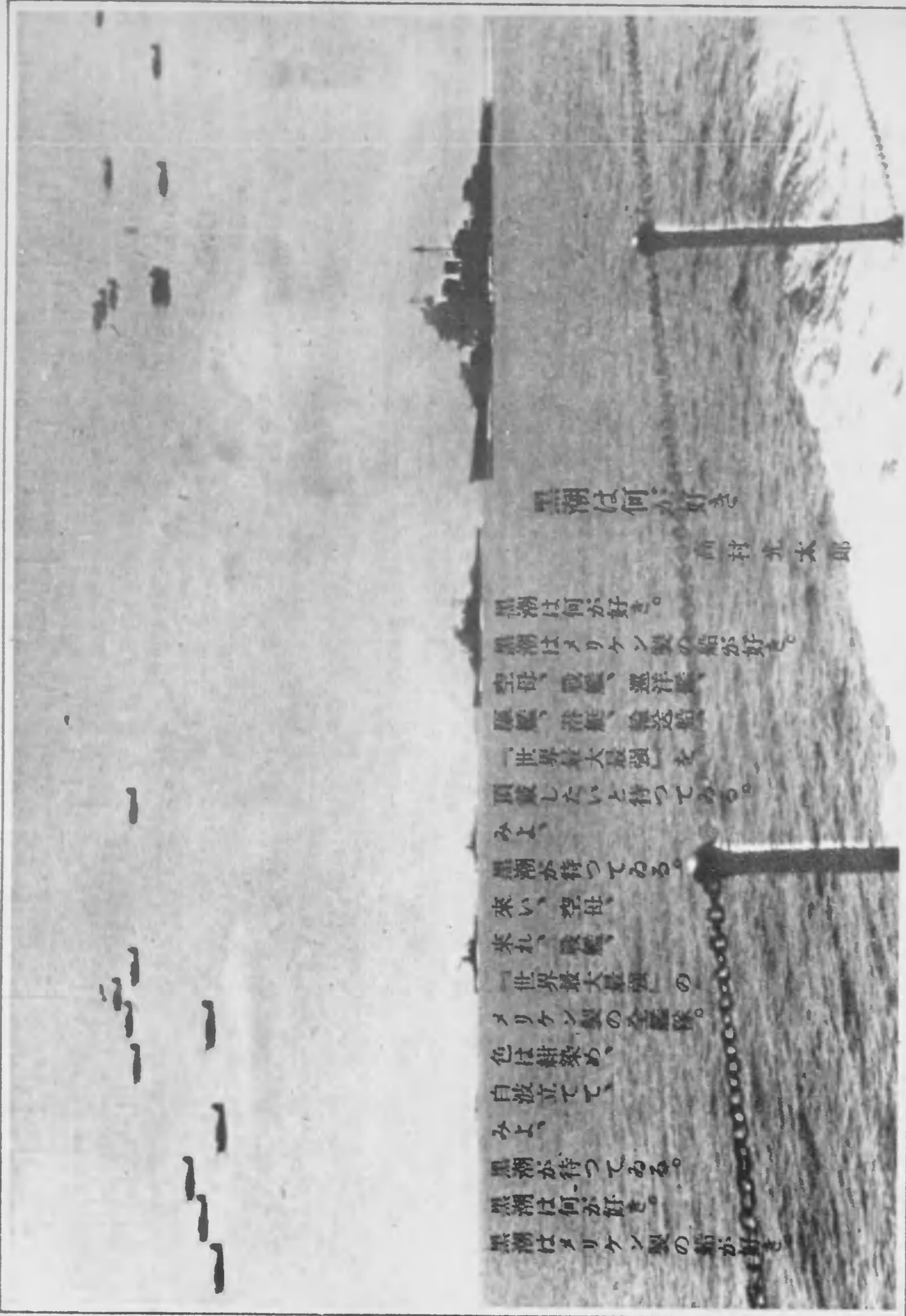
週 報 寫 真

戦 立 の 時

静かに秋を湛えしも
今は日本の野も山も戦つてゐる
美しきこの國土
母なる國土
この國土りがあつた

この地方は馬場町として知られ、戦後の出陣者は、以上が村人に見えらるゝを、戦時としてゐる

戦艦追の保確機勝



黒潮は何が好き

高村九太郎

黒潮は何が好き。
 黒潮はアメリカ製の船が好き。
 空母、戦艦、巡洋艦、
 駆逐艦、潜水艦、輸送艦
 「世界最大最強」を
 頂戴したいと待つてゐる。
 みよ、
 黒潮が待つてゐる。
 来い、空母、
 来い、戦艦、
 「世界最大最強」の
 アメリカ製の空母艦隊。
 色は紺染め、
 白波立てて、
 みよ、
 黒潮が待つてゐる。
 黒潮は何が好き。
 黒潮はアメリカ製の船が好き。

十月二十四日から二十六日にかけて比島東方
 奇襲で行はれた「フィリピン沖海戦」は航空兵
 力に著しい航空部隊、機動部隊を主兵力とし、海
 上部隊がこれに呼応して出撃した艦隊勢力の演
 習であつた。即ち、戦場の主宰には我が国の飛行
 機が躍進し、海上では彼我多量の艦隊が活躍に
 自波を立て、新機軸は空から海へ、そして

また海から空へ、戦場一帯を敵の入り難き
 つた。しかも我が艦隊も水中から敵艦を攻撃
 し、この海戦は文字通り「立體戦」であつたので
 ある。
 「フィリピン沖海戦」での我が方の輝かしい
 戦果は、十月二十七日の大本営発表に明らかで
 あるが、精強な我が航空部隊、海上部隊、潜水

艦部隊、一躍となつての猛攻撃により、敵は航
 空母艦隊の撃沈十五隻を以て、撃沈
 された艦船二十七隻以上、撃沈飛行機約五百機
 を誇るの大損害を蒙つたのであつた。
 この海戦は二十四日の我が航空部隊による攻
 撃が始まり、二十五日の我が海上部隊の肉薄攻
 撃が海戦の中核となり、二十六日には航空部隊

による急襲攻撃が行はれた。この間我が潜水艦
 部隊の活躍もあつた。このやうにこの
 海戦を時間的に、月日の上からたぐひる時は謹
 かに二十四、二十五、二十六の三日間に亘つた海
 戦ではない。しかしながら、この「フィリピン
 沖海戦」といふものは、決して「三日間の海
 戦」ではない。これは敵米國の比島上陸作戦を
 中心とする大合戦の一場面、否、大東亞戦争の
 一劇なのである。
 つまり、この海戦は十月十日の敵機動部隊に
 よる我が南西列島に対する空襲、引續き同十
 二日から十六日にかけて行はれた「臺灣沖航空
 戦」、また同十五日に於つたマニラ東方海戦での
 敵機動部隊の襲撃、そして同十七日、敵艦隊の
 レイテ諸島等と、切つても切れない血の戦が
 つた戦ひなのである。従つて、この海戦で敵に
 このやうな大損害を與へ、打撃を加へたこと
 は、敵の比島方面に対する作戦に大なる断絶を
 來したには相違なく、また、敵の將來の作戦に
 も大きな吹ひ込みを生じたことも想像を許され
 るであらう。だが、絶対に安心してはならず、
 安心も出來ないのである。

何故なら、「フィリピン沖海戦」が
 ほんとの意味での「現代の艦隊」勢
 力の決戦的激戦であつたことは、太
 平洋戦線が非常に大事な場面に入
 つた、これからが天下分け目の、油
 断も隙もならない戦機を醸成しつ
 つあるからである。敵は現在、レイテ諸
 島方面にマクアーカーの軍を侵入させ、タクロ
 ベン、ドラファダを中心に必死の上陸戦を強行し
 てゐる。その比島上陸作戦の目的は、
 暫く置いて、敵艦隊がその上陸軍を保護し、補
 給し、増強するため再び、三度、非常な決心
 で出動して來ることには明らかであり、また、そ
 の力を持つてゐることも間違ひない。この後も
 第二、第三の「フィリピン沖海戦」が起るであ
 らうことは十分に覚悟しておかねばならず、幾
 度、敵艦隊出動し來るとも、必ず撃滅し、必ず決
 心を固めておかねばならない。

現代の戦争は、陸戦でもさうであるが、海戦
 でも消耗が極めて大きい。中でも艦隊の主兵
 力である航空部隊一乗行艦の消耗は、臺灣沖航
 空戦、フィリピン沖海戦をたぐひても分る通り
 で非常なものである。現代の戦争は、飛行機の
 例えをたぐひても消耗が大きいのであるから、戦
 争の勝敗は、結局敵味方どちらが早く、その
 消耗を補給し、さらに兵力を強化するか、どう
 にかつて決定するものである。機動すれば強
 後の生産力の如何、即ち國民の戦争努力の強弱
 がそのまゝ急激に戦場に反映し、勝敗がその結
 果となつて現はれるのである。
 即ち「フィリピン沖海戦」は航空兵力を主
 兵力とする「艦隊勢力」の激戦であると述べて

おいだ。この點で「現代の艦隊勢力」は、舊の
 艦隊、「海上艦隊」艦隊を主兵力とする艦隊と
 全く趣を異にするに判つた。今日でも、まだ倭
 艦として、「艦隊」といへば、寧ろ海上を主として
 活動する艦隊の美譽を稱し、「艦隊」と呼べ
 ば「軍艦」と稱する考へ方が根強いやうであ
 る。この考へ方は、最早や舊式のものである。
 「現代の艦隊」は、軍艦艦隊部隊のみによつて成
 り立つたものではない。それは某地航空部隊をも
 含む航空部隊及び機動部隊等を根幹とする艦隊
 勢力こそが聯合艦隊なのである。
 何故「現代の艦隊」は航空兵力を中心とする
 やうになつたのか。それは、制空権が勝利の
 根となつたからである。
 帝國聯合艦隊は寧ろ「現代の艦隊」であ
 る。そしてその實力を世界に示したのが「フィ
 リピン沖海戦」であるが、その實力によつて來
 る所以は、艦隊勢力の精強は勿論であるが、戦
 後の生産力の増強と補給力の發揮にある。如何
 に精強なる艦隊であつても、消耗する兵器弾薬
 の補給なくしては敵を撃滅し得ない。また、艦
 隊の補給が切絶のとれたものであることも戦争
 に勝つためには絶対に必要である。艦隊を制空
 のとれたものにするのも、しないのも、これま
 た我々國民の努力一本に懸つて來る。
 要するに帝國聯合艦隊がこの後も精強
 比の艦隊として、敵艦隊撃滅に邁進できるか、
 どうかは、偏へて我々國民の奮起挺身にあると
 断じて得よう。艦隊の戦場は、國民の戦ひの現
 れであるといふことも出来るのである。
 艦隊戦とよくいはれる。現代の戦争は消耗が
 大きく、補給しながら、生産しながらの戦争で
 あるから、国力をあげて戦力化せねばならぬと



養を養育する
 豊田國吉艦長
 司令官

の意味で、この艦隊は理解されてゐる。これ
 は決して誤解ではない。だが、艦隊の意味
 と、ほんとの内容を完全には解したものでない。
 艦隊とは、國民、軍、官、民の、
 力が戦争を自己の生活として無限大の努
 力を傾注するにある。機動すれば、全國民
 民が戦争活動者でなくなることである。
 戦争即生活、生活即戦争の態度をとるこ
 とである。
 戦時下の生活は消費を補給するのみではな
 い。どこまでも敵艦隊の生産なのである。消費
 するから、補給を要するからの生産は消費的で
 しかない。戦争はそんな生身しいものではない
 のである。
 「フィリピン沖海戦」は「艦隊」を開いた。しか
 し、戦争はこれからである。
 敵米國の作戦が常に物量に基つてゐる
 が、その作戦が常に物量のみで恃んでゐるの
 ではない。周到なる用意、考慮を携つて、正攻法
 に出て來てゐる點を見逃してはならない。
 戦局轉回の機会は來てゐる。この
 機会をもつにするのも、しないの
 も、戦後の決心一つにある。現代の戦
 争を正しく知り、艦隊戦を體得し、
 そして無限大の努力へ精進する心
 構へ、生活態度をとるところにある
 敵を侮るな、一機、一艦を厭ふ將
 兵の心を心として、敵を猛追また猛
 追勝利の日まで、お互に闘ひ抜かう
 大本營海軍報道部



學堂の出現への中を式典場へ — 大分地方式典 大分合同新聞社



式典場前に参集の遺族 — 岐阜地方式典 岐阜合同新聞社



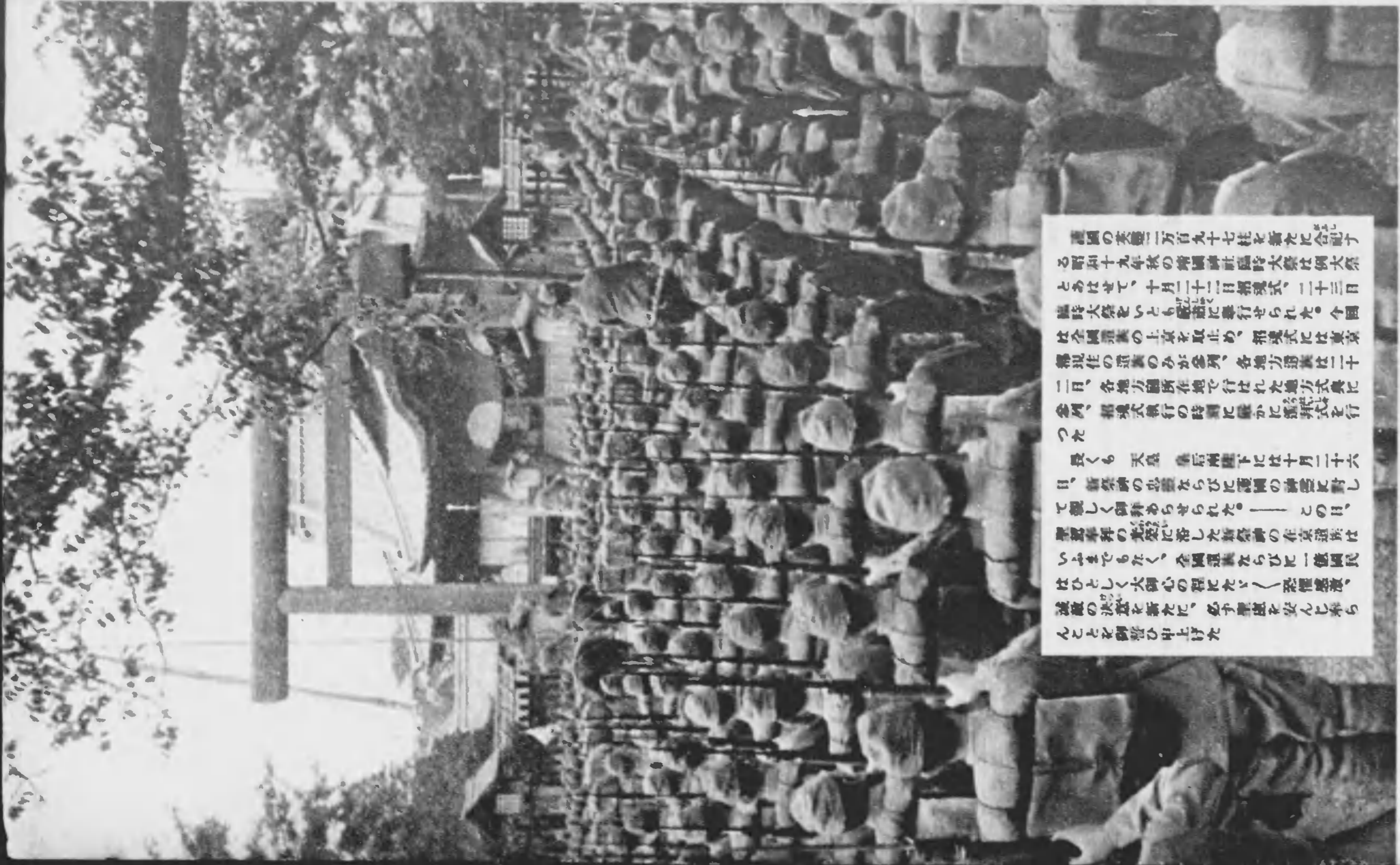
陸海軍大臣の挨拶代議 — 愛媛地方式典 愛媛新聞社



アイヌの老婆も皇恩の廣大に泣く — 北海道地方式典 北海道新聞社

晴國の註明に秋深み、剣光輝たり — 在東京軍部殿の参拜

新祭神二万百九十七柱



諸國の英靈二万百九十七柱を新たに合祀する昭和十九年秋の靖國神社臨時大祭は例大祭とあはせて、十月二十二日新魂式、二十三日臨時大祭をいとも盛況に挙行せられた。今回は全国遺族の上京を阻止め、招魂式には東京都現住の遺族のみが参列、各地方遺族は二十二日、各地方國所在地で行はれた地方式典に参列、招魂式執行の時刻に陸かに参拜式を行つた。

最も天皇皇后兩陛下には十月二十六日、新祭神の忠靈ならびに諸國の神靈に對して親しく御拜あらせられた。——この日、聖駕奉拜の光榮に答した新祭神の在宮遺族はいふまでもなく、全国遺族ならびに一億國民はひとしく大御心の程にたゞく悲懼感涙、誠意の深意を新たに、必ず聖慮を安んじ奉らんことを御誓ひ申上げた。

祭大時臨の秋社神國靖



遺族を背に御下賜品を拝受する遺族 — 愛媛地方式典 新右半日報



アイヌの老婆も皇恩の廣大に泣く — 北海道地方式典 北海道新聞社

追撃の もつ一機を



臺灣沖航空、比島沖海軍ならびにレイテ
艦隊航空隊に、わが陸海軍があげた戦果
は、歴史に刻のない輝かしいものであり、比
島奪回を焦る敵の出兵に一大痛打を加へた。
しかもこの大勝利の途には、全国の航空機工
場が、前線に駆け、窮乏でも止まずの生
産力で新鋭機を頻々第一線に送つた血と汗の
努力がある

だが敵は未だ参つてゐない。その總力を、
比島をめぐる太平洋海戦に注ぎ込んで、飽く

まで押し切らうとしてゐる

戦時轉換の神機を羅漢にとらへて、一大道
撃戦に参るのは今だ。だが、それには敵より
優秀な航空兵力を急速に第一線に補充しなけ
ればならぬ

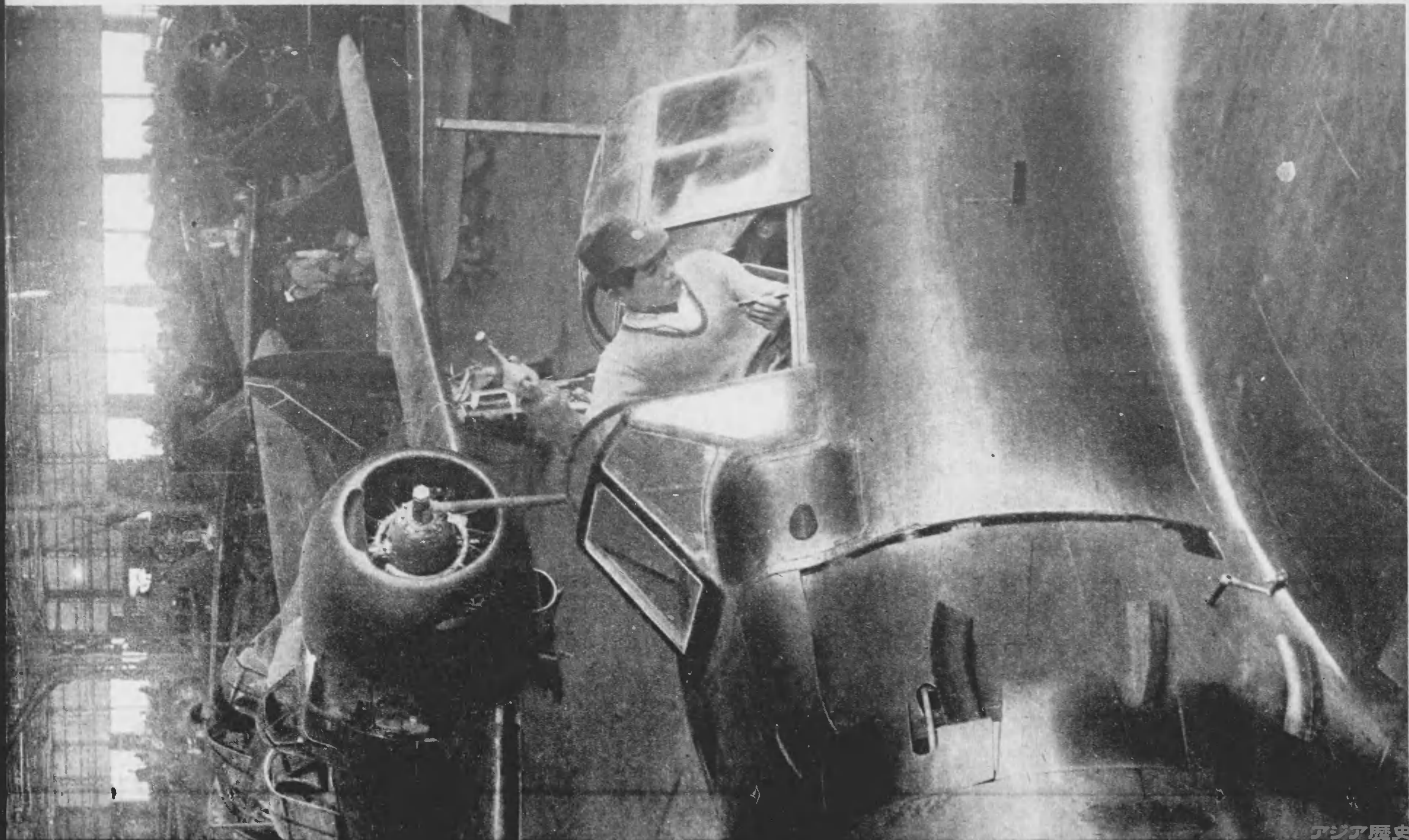
送らう。隠れてもよい、今日の一機を前線
に送らう。全航空機工場、いずる國民が、
を決して追撃生産に突入する時、勝利の大運
は自ら開ける——この度の大戦果と共に、

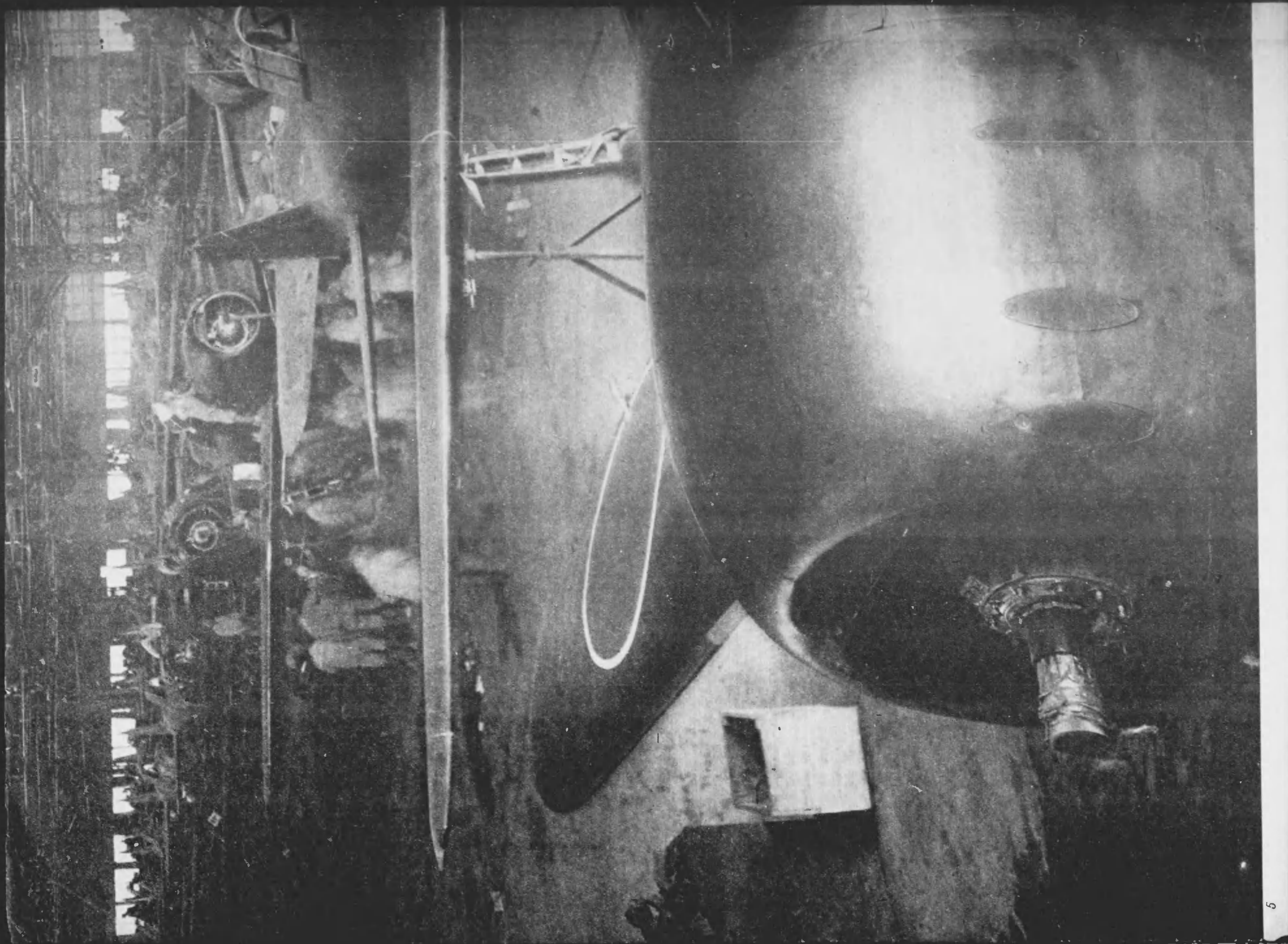
特に陸海軍大臣等から感謝と激賞の電文を寄

せられた中島飛行機製作所〇〇工場では、戦
果に誇らず、既に追撃生産をめざして各工場
火の玉となつて躍起した。終戦まで速上し、
追撃の一機を送らうと、連日連夜頑張り続け
る工具、機体、組立隊の姿は涙ぐましい。し
かも、「百校一中の純自衛に優る」と叫ばされ
た聖將軍總五師の嘉訓に活き、眞實とも今日
の決戦に勝ち抜くに見る航空機の増産に挺身
し、あくまで任務の達成に邁進してゐる

工場をまじと裏まつらねた新鋭海軍軍用機

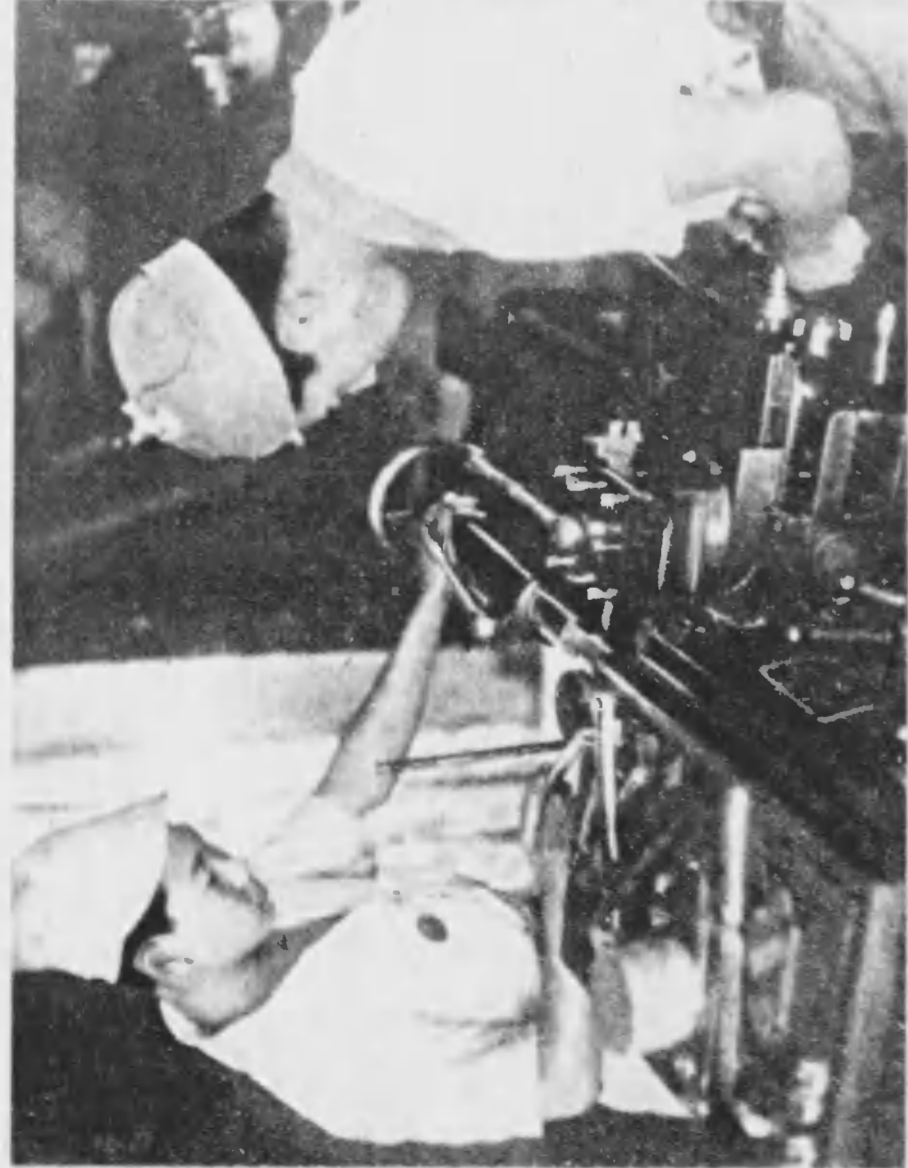
ぞく／＼追撃の大空へ



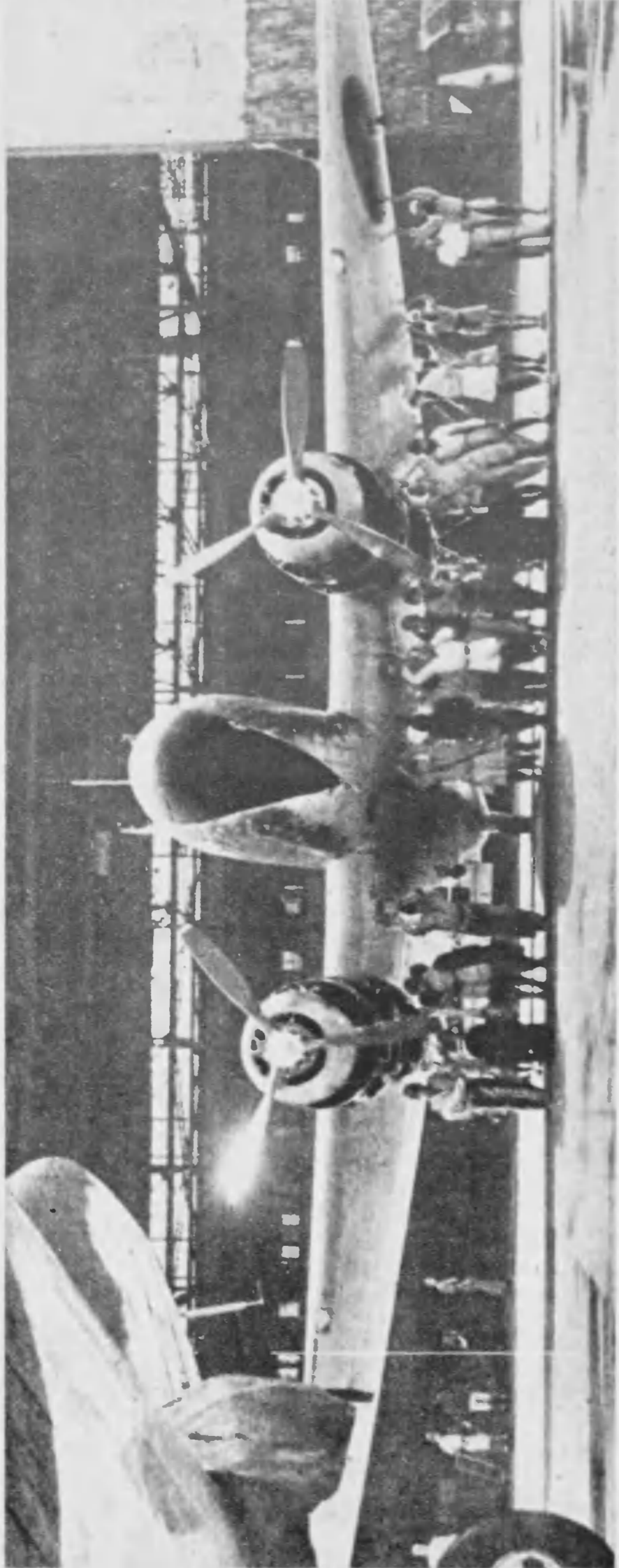




今では設計図を見ながら、おそくと練習をされるようになった



「アラは一つなり」と、昨年十一月五、六日の大東亞會議で東洋に宣言してから二年、全くその實現めまして、全東亞は固く結び合ひ、固ひ續いて來ました。中でも心強いのは、現地の若少年が日本を盟主と仰ぎ、あくまで



機師 木下重雄君

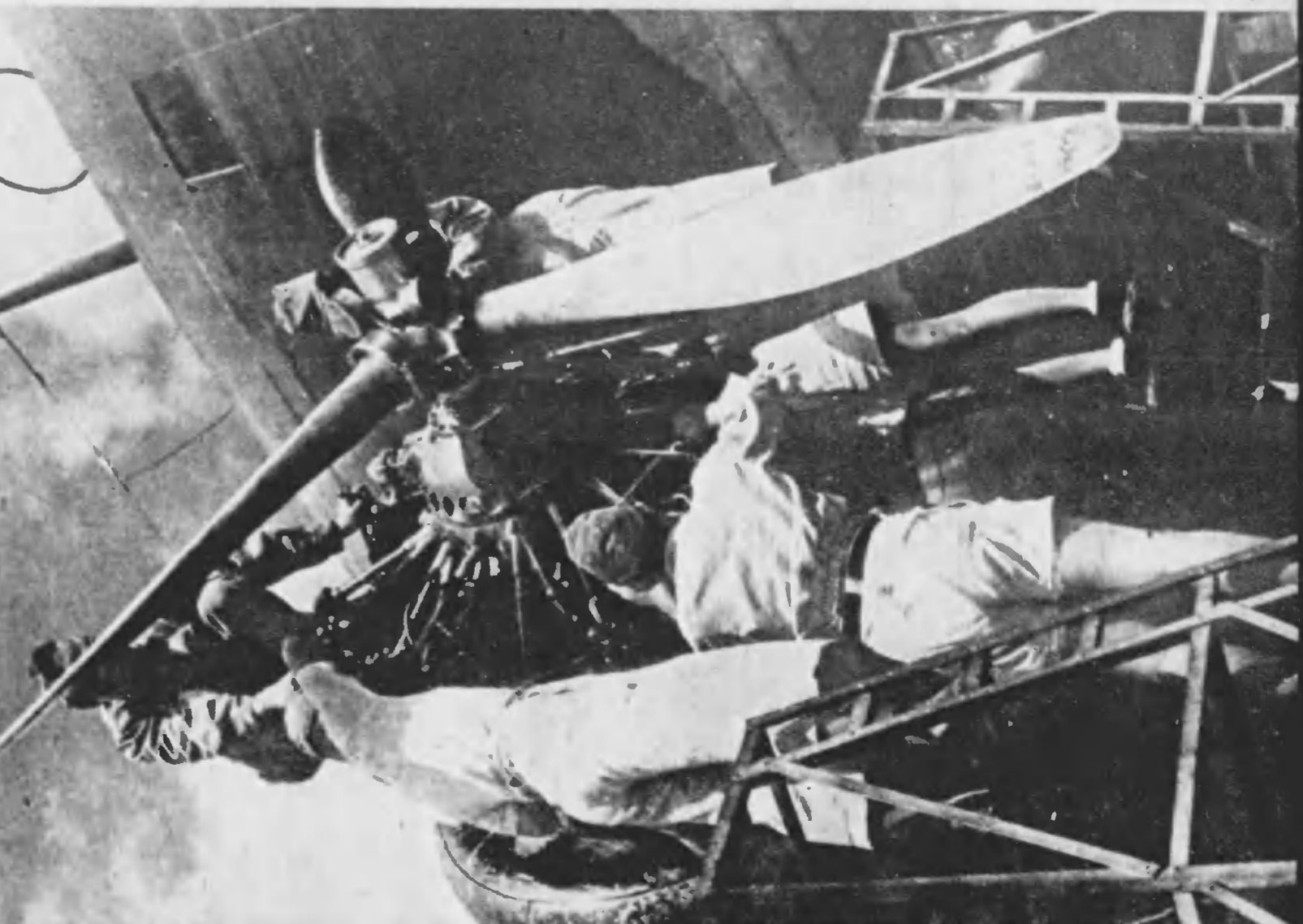
も東亞を盟主と決意に懸てゐることです。例へばとくに紹介するアライ航空軍技術兵のインドネシア所少年も、現地工具農林所や南工業學校を創立つて訓練を授けられてゐたのですが、この決意に、二層も早くお役に立

マラヤ 義勇軍技術兵

竹をぶらにぶつても、鐵機了した飛行機を飛行機へ引附きとらば、飛れぬしとびます

例の若さん、兩機もまをら、情い表裏と誇りまで、二機に墜ひまをら

日本の空軍さんと仰ぐ、譽揚する時は、よく東亞の子に任れられるとしみじみ思ひます



この国土

郷里へ歸省中のある日、私は山を越え立つて、思
 霧塔のある町に降り、その方へ散歩に出かけた。霧塔三
 十三の寺の寺域に出ると、私は本道を外れて、杉木
 立の中の奥道に入った。青苔におおはれたヒンヤリし
 た土の上で、幾多の人々の踏み固めた道が、杉の緑を
 を越え、灰石の間を露して、ほそくと横たわっている。
 右手の方には、樹の隙から、霧の水田に露をたらした
 町の鐘が望まれ、そこだけアツと明るく顔を上げて
 むるのが、夕景でも見えてゐるやうなほかない気持を
 起させた。

霧塔には新しいお寺がいくつも建てた。それは、
 人がなく静かになつて、いま日本の國が富強してゐ
 る嬉しい事柄を、静寂無事に切々と物語つてゐるやう
 に思はれた。

「ああ、くたびれやう！」

男は何度も立ち止つて腰を伸ばすやうな仕草をした。
 私は或る微笑を舞へきれなかつた。といふのは、男は
 一生涯働きた人であり、いまでも腰を振つて一日一
 日作りをせしめて、七八里の道を自転車で吹っ飛ばして
 好きな雑貨物に出来るくらゐの脚力を持ち合せて

ゐるのたが、何の気もなさない「散歩」のためにか
 くときは、すくなくたびれてしまふのが面白いと思つ
 たからである。

霧が出たやうな中に包んでくれた林を越えながら
 やややく霧地を越えて、霧塔の奥道に出た。市民の
 労働奉仕による三年がかりの工事が資材や労力の不足
 で、霧塔の外形が出来上つたばかりで、未だ完成し
 ておられないが、この霧塔から見ると景色は素晴らしい
 ものだつた。西には晴れ渡つた青空の下に、幾層な岩木
 山が聳え、その山麓から流れ出す津軽平野が、霧塔の
 麓まで、豊かな黄金の波をヒタヒタと打つてひろがり、
 正面に見える市街の外観をおし包んでゐる。銀色
 の河が流れるやうに、くわつてその間を流れてゐた。霧
 下の水田では、赤い穂がけをした百姓の顔達が五、六人
 働いており、風の音で、ときどき若々しい笑聲が、
 耳を打つほど近く近く聞えて来た。

切符を腰に下し、霧の汗を拭きながら、霧塔の景色
 を眺めてゐた男は、よどんだ眼のやうに、眼を
 「山は晴れて、霧は巻いて、なほいい景色だわ
 え。これは、霧に負けてはせんやう！」

顔を上げて、私は自分の胸内の血がつかつか沸き立
 つて来るのを感えた。

霧塔の兄弟 横山隆一 36



霧塔の兄弟 横山隆一

霧塔の兄弟

霧塔の兄弟

霧塔の兄弟

霧塔の兄弟

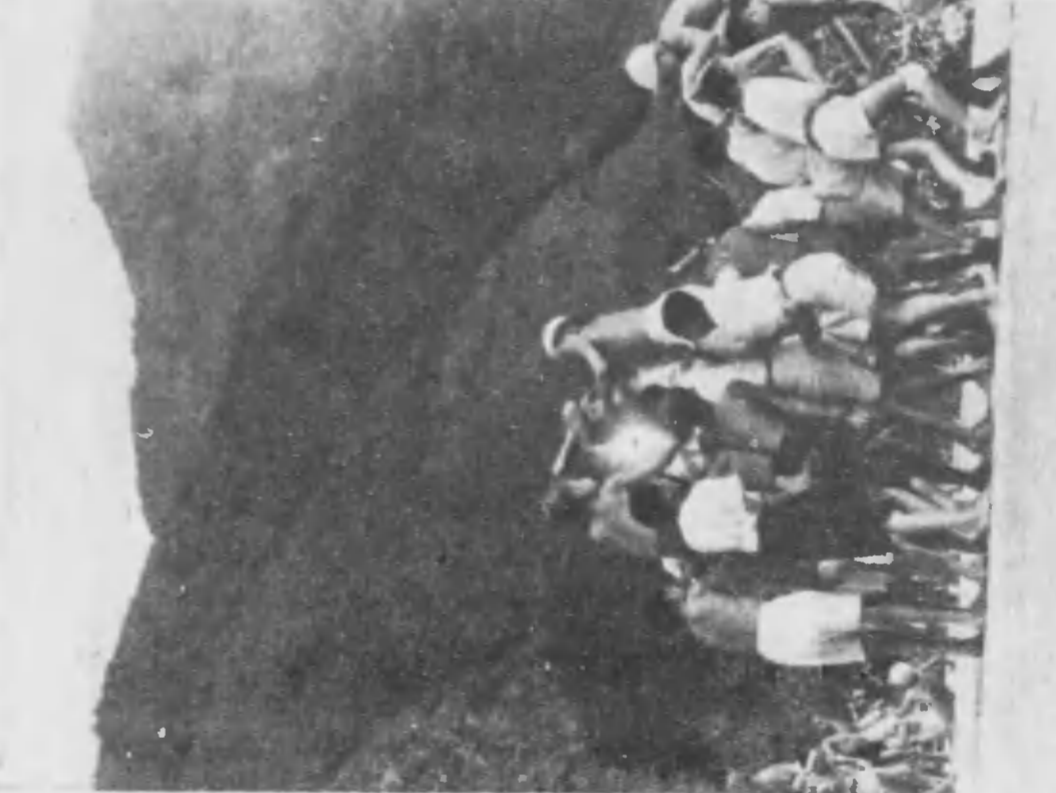
かたがた

皆さんの創意工夫、
 職を勤めてこの國情
 を打開して下さい

「まあ、お前さまつ
 たら、こんな大きな火消量
 をお前になつておらつし
 やるんですか、これではな
 かなか火が消えませんが
 せう。それに炭は火消で消
 すより、水をかけて消した
 方が、すくなく消えてお前
 さま」

「あら、さうですか。し
 らも先月、火事の時、ど
 ちらが火を消してしま
 したんです、さうしたら」
 (霧は蒸気だ)

「ガスは火消を
 消すには石炭を使つて
 みるのが一番です。目にか
 らない程の小さな孔から漏
 れてゐるときでも、漏れに
 ついた石炭が油になつて
 くらみまますから、よくわ
 かります。孔は新機が成
 ひはまたな無きれを貼つて
 詰めます」



0 白衣の兵隊をお心むらぶる軍曹

長野縣戸倉国民学校では、このほど軍曹から陣
 助をしてきた軍曹もお仲間にして、楽しい隊の終極
 運動会を開きました。運動会には、近頃の土山田
 信義義塾所から白衣の勇士をお招きしたのです
 が、勇士たちも、ヨイヨイたちの元氣な隊員ぶり
 に、しばしば軍曹の身を忘れて大遊びでした

新編局長編昭和十九年度國民隊畫本軍曹
 圖畫規定

題材年代 戦後 未発見のシナリオ形式のものに限る
 紙 縦四角 印刷用紙五百五十枚以内。印刷は縦書き
 を附すること
 発行 昭和十九年十二月三十一日
 編集 東京府東區區民館第四十四番地東京府民館内
 社団法人日本隊畫協会 社刊 國民隊畫畫本第一と
 朱書きすること
 賞 金 州長局総賞 一萬金二千円
 州長局賞 三萬金二千円
 並びに府賞 大日本隊畫協会賞
 他 昭和二十年三月十日
 その他 印刷の第一回に出作所、職業、略歴
 氏名(筆名のあるものは筆名)を附記すること。印刷は縦書き。ま
 た審査に際しての調査には限らない

大映 轟天 轟天 轟天

轟天 轟天 轟天

轟天 轟天 轟天

轟天 轟天 轟天

